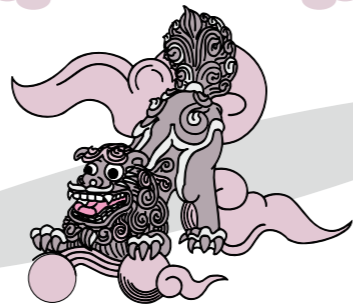


## 獅子舞フェスティバルで小波津の獅子舞を披露

9月25日にうま市石川運動場で開催された「第26回全島獅子舞フェスティバル」に、小波津伝統芸能保存会（糸数善昭会長）が出演しました。3回目の出演となる同保存会は、地域伝統の獅子舞と棒術を披露。約300年前から地域で受け継がれてきた華麗な獅子の舞いと、3種類の勇壮な棒術を演じ、会場を埋め尽くした観客から喝采を受けました。



# まちの話題



## 小波津地区で、伝統の「小波津7年まーる村遊び」が盛大に開催

小波津地区で、6年おきの卯年と酉年に催される伝統行事「7年まーる村遊び」（同実行委員会主催）が9月11日、小波津集落センターで開かれました。同行事は明治のころから地域の豊年祝いとして開催されていましたが、諸事情で一時途絶え、平成17年に30年ぶりの復活を遂げました。それ以来の開催となった今回は、会場を埋め尽くした観客を前に地域で受け継がれる棒術や獅子舞、組踊などが披露されました。

開催にあたって糸数義秋実行委員長が「復活した6年前と同じ『一人一人、みんなが主役』を合言葉に、区民ががんばってきた。先人たちの築き上げた伝統芸能の継承とともに、小波津区の発展を誓いたい。」とあいさつしました。戦前から地域で演じられ、小波津区では18年ぶりの上演となった組踊「父子忠臣」では、色鮮やかな衣装に身を包んだ演者が舞台をいっぱいに使って敵討ちの物語を演じ、華麗な踊りや刀の立ち合いに喝采が浴びせられました。組踊の指導者の一人、玉那覇三郎さんは「約4ヶ月稽古をして今日を迎えた。行事を通じて、伝統を受け継ぐための後継者育成につながる。」とこれからの地域の発展に期待を寄せました。



## 若者が躍動！第10回さわふじ青年エイサーまつり開催



各青年会・団体が伝統文化を披露し、町内外の多くの方に知っていただくとともに、次世代の子どもたちが伝統文化に興味を抱いてもらうことを目的に、「第4回西原青年祭 第10

回さわふじ青年エイサーまつり」（西原町青年協議会主催）が9月25日、東崎公園（字東崎）で開催されました。まつりには坂田・幸地・小那覇・内間団地青年会や小那覇・坂田の子ども会に加え、舞琴琉太鼓、棚原弥勒太鼓などが出演しました。

主催した西原町青年協議会の屋嘉部景介会長は「先輩から受け継いだ伝統文化をさらに発展させ、後の世代に受け継ぎたい。」と力強くあいさつしました。出演した各団体が繰り広げるエイサーや旗頭、創作太鼓の演舞に、来場者は大いに盛り上がりました。

## マリントウンで乗馬を体験！ —「マリントウンドキドキ乗馬パーク」開催—

西原・与那原両町と県の関係機関で組織するマリントウンまちづくり推進協議会は、マリントウンを魅力ある地域として発信するアピールのため、乗馬イベント「マリントウンドキドキ乗馬パーク」を9月4日、東崎商業施設用地で開催しました。イベントは南城市の「うみかぜホースファーム」の協力のもと3頭の与那国馬を使って行われ、218名が乗馬を体験しました。参加者は恐る恐る馬に乗り、係員が馬を引いて会場に設けられた特設エリアを周回。乗馬に慣れたころには手綱から手を離すなどして、馬の乗り心地を楽しんでいました。また会場では、東日本大震災の復興支援のため募金活動が実施され、集まった13,816円の義援金が日本赤十字社沖縄県支部へ送られました。



## 県外派遣費用の助成金を交付 —西原町人材育成会—

西原町人材育成会（上間明会長）は、県外の大会に出場する個人・団体に、派遣費用の一部助成を決定しました。第43回九州ジュニア水泳競技大会（長崎県）に派遣される豊里百花さん（西原中3年）は、同大会で個人自由形とバタフライ、200mリレーと200mメドレーリレーに出場。西原小音楽部は第66回九州合唱コンクール（熊本県）の小学校部門に出場するため、それぞれに助成金が交付されました。派遣を前に豊里さんは、「リレーは予選会で県記録までもう少しだったので、九州の舞台で記録を狙いたい。個人種目もベストを尽くしたい。」と意気込みを語りました。



豊里百花さん（中央右）



交付を受ける西原小合唱部の代表者のみなさん

## 製糖の歴史をまちに刻む—製糖記念小公園の除幕式—

西原町の製糖に関する歴史を後世に語り継ぎ、今後の製糖の発展を目指して、小那覇交差点に製糖記念小公園が完成し、9月13日に公園の除幕式が行われました。西原町はかつて、さとうきびが主要作物として栽培されており、巨大な製糖工場が立地していました。また、字小橋川出身の大城助素氏が玉車式圧搾機を発明し、製糖技術の向上に大きく貢献するなど、歴史的なゆかりがあります。そこで、新中糖産業株式会社（福里重盛代表取締役社長）が創立50周年事業として記念碑などを備えた小公園を建設しました。

除幕式で上間明町長は「さとうきびの歴史をしのび、発展に寄与した先人を称える意義のある公園。新名所として地域の発展に役立つものと期待する。」とあいさつしました。

小公園には工場の煙突をかたどった時計台が立ち、圧搾機の模型や歴史が記されたパネルが展示されています。収穫したさとうきびを馬車で運ぶ様子を描いた壁画「軌道馬車」と黒糖製造工程図は、西原中学校の美術部員が描いたもので、制作に関わった我那覇有紀部長は完成作品を前に「公園にずっと残る作品の制作に携われて光栄。後々の世代に製糖の歴史が繋がってほしい。」と誇らしげに語りました。



自分たちの描いた壁画を前に笑顔。壁画を作成した西原中の美術部員たち